

東海第二原発地域科学者・技術者の会 趣意書

東海第二原子力発電所は日本で現存する沸騰水型軽水炉の中で操業年の最も古い、1970年代の発電所です。一定期間の稼働を経て現在用いられている設計思想や施設設備の材料（金属材料やケーブル）に比べて古いということであり、古いということでの脆弱性の側面をも有する原子力発電所です。古くなった圧力容器を新品のものに取り替えることはできません。同じく、環境に放射性物質を漏らさない最後の砦とされる格納容器を始め、安全上重要で、かつ老朽化しても補修・取替えが極めて困難、またはほぼ不可能な設備、機器は多くあります。

この古い原子力発電所に、いつ、どこで、どのような規模で起こるか予測できない地震、津波等の自然災害が襲いかかることも否定できません。何よりも、事故は起こらないという安全神話が、福島第一原発事故で覆され、事故は起こるという認識が多くの人に共有されるようになりました。原発事故が起こり、放射性物質が環境に放出されてしまった後の苦難は、今日ただいま経験を新たにしているところです。

私たちは、この地域での安全な暮らしの持続のためには、東海第二原子力発電所を再稼働せずに廃炉にすることが必須だと考えます。エネルギーを多消費する今の、生産と生活の体系を考えなおし、人間の生活にとって不可欠な自然を守りつつ、原発なきあとの地域の有り様を、叡智を集めて作っていくことに思いを馳せながら、さし当たって東海第二原子力発電所の再稼働をさせないことに力を尽くします。

と同時に、私たちは、この地域に住む科学者技術者です。いま、東海第二発電所の安全対策を検討している、茨城県原子力安全対策委員会東海第二発電所安全性検討ワーキングチームの検討内容・結論について、科学者技術者の立場から科学的技術的な検討を加えて、質問・意見を提起していき、再稼働の動きにブレーキをかける役割を果たしたいと考えています。また、日本原電が避け、ワーキングチームが課題として取り上げていない安全性や避難に関わる問題にも踏み込み、科学的技術的な検討結果を明らかにしていく所存です。

このまま行けば、日本原電の安全対策は技術的に妥当とされ、再稼働への流れが一気呵成に進んでしまう恐れがあります。その流れに抗する大きな動きを作りたいと思います。

このような趣旨で会を結成しました。

2022年4月15日

東海第二原発地域科学者・技術者の会 会則

- 一 名称 東海第二原発地域科学者技術者の会 という
- 二 目的 東海第二原発の再稼働を憂える者として、茨城県原子力安全対策委員会東海第二発電所安全性検討ワーキングチームに、東海第二原発の危険性にかかる質問書を公開で提起し意見を具申すること、及び日本原電が避け、同チームが課題から排除している安全性や避難に関わる問題にも踏み込んで科学的技術的検討を加え、結果を公表すること
- 三 会員 前項の目的に賛同するこの地域の科学者技術者とする
- 四 役員 会の代表を1名置く。代表代行を1名置いてもよい
- 五 活動
 - 1、勉強会
 - ①茨城県原子力安全対策委員会東海第二発電所安全性検討ワーキングチームの審議に提出された、日本原電の資料及び審議内容の検討
 - ②日本原電が避け、同チームが課題から排除している安全性や避難に関わる問題の検討
 - 2、勉強会から、「質問書」「意見書」を作成し、茨城県原子力安全対策委員会東海第二発電所安全性検討ワーキングチームに提出し、県民に公表する
 - 3、会存続の議事 勉強会ごとに、庶務的課題は全員の総意で解決する
- 六 経費 必要が生ずれば、会の行事のたびに出席会員のカンパでまかなう

以上